

## 仏様のおはなし新シリーズ第69集 「永代経(えいたいきょう)」

私たち浄土真宗の門徒にとって大切な仏事の一つに、「永代経法要」があります。福岡組のお寺では毎年五月、六月に各寺でつとめられています。

それでは、「永代経」は何故つとめるのでしょうか。ご自分のお家の先祖の永代にわたる読経供養をお寺にお願いするお経料と違って、御懇志を上げられるご門徒さまもおられるのではないかと思います。「永代経を上げておけば、施主がいなくなっても子孫が絶えても大丈夫。」そんな声もお聞きしたことがございます。

ご先祖を供養させて頂こうというお気持ちは尊いことではありますが、ではそれが浄土真宗の永代経をつとめる目的でありましょうか。浄土真宗のおしえは亡くなられたご先祖のためのものではなく、あくまでも今生きている私たちが迷いからめざめさせて頂くおしえであります。よく考えてみれば、先祖といっても私を離れた先祖はありません。先祖の供養という気持ちを掘り下げてみれば、今の私たちの生活に先祖のお気持しがすべて入っているわけです。私たちがお念仏のおしえに遇うことができれば、先祖もお念仏のおしえに生かされていたことに気付かされます。

また後の世の人もお念仏のおしえによって生かされていくことが知らされます。それゆえに私たちは、お念仏のおしえが説かれてあるお経を大切にさせていただくのであります。

私たちの先祖がいのちがけで受け継いできたお念仏のおしえを、しっかり私たちの子孫にお伝えすることのできる信心を一人ひとりがいいただくこと。お念仏のともしびを絶やさぬよう、そしてますます栄えていくようにという心から永代経をつとめさせて頂きますよう。

